

# アクティブ・ラーニングの視点からの授業設計

## 1 対象（実施を想定する学校・児童生徒の概略）

### 知的障害特別支援学校 高等部

本校は卒業後に就労を目指す生徒が在籍している。本校の作業学習は「ワーク地域」と呼ばれる地域の会社・店舗等で行う活動と、「ワーク工房」と呼ばれる校内で行うものづくりの活動があり、「ワーク工房」は農耕作業と縫製作業の2つのグループがある。それぞれのグループでの作業は3年間継続して行い、技術の積み上げによる向上やそれによる意欲の高まりが期待される。本授業は2年生を対象とし、生徒たちは1年次から農耕作業を行っているため、畝づくりや施肥、は種等の基本的な作業が身につけてきている段階である。

## 2 教材のねらい（単元としてのねらい、単元の中の位置づけ、生徒に期待する学習など）

1年生の段階では、主として地域のバザーや敷地内の高校の職員室に対し、収穫できた際に収穫できた量を販売するというかたちで作業を行ってきた。2年生になって少しずつ行ってきた、注文を受けて地域の店舗に製品を納品するという活動を充実させることで、より強く目的を意識し、自ら作業に取り組む意欲が高まったり、手早く丁寧に作業したりする姿を引き出したい。また、納品に向け、本日の作業内容をどのように進めればよいか考え、計画を立て、仲間と共に遂行しようとする姿を引き出したい。結果として、人のために働きたいというキャリア発達が促されることにも期待したい。

## 3 授業の展開（本時：15 / 20 時間）

		時間配分
<b>解決したい課題や問い</b>	納品に向けて注文票を作り、販売先に FAX 送信することができる。	導入 (20分)
<b>授業開始時に想定される児童生徒のあらわれ</b> ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に学習に取り組む態度	①どの野菜が収穫できて、どれくらいとれるだろうか。 ②注文票を作成するまでの作業をどのように進めればよいただろうか。 ②出荷できる野菜の規格（大きさ、重さ）はどうなっていて、注文票に載せることができる種類と数はどれくらいあるだろうか。 ③今日の作業では、何を、どのように頑張ろうか。	

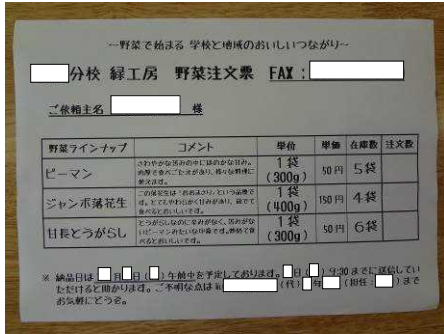
考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C	展開1 (120分 ※展開1 と2を合 わせて)
(はじめのミーティング) ・栽培計画表 ・ホワイトボード（作業分担表）	(収穫・出荷調整) ・腕時計 ・様々な身体の部位（収穫可能サイズの基準としての使用） ・注文票テンプレート	(目標設定・ふり返り) ・作業日誌	
<b>想定される活動</b>	<b>想定される活動</b>	<b>想定される活動</b>	
・栽培計画表を見て、収穫可能な野菜の種類をリストアップする。 ・作業分担表を手がかりに作業分担、作業場所、作業時間を考える。	・時間内に注文票を送信できるよう、時間を確認しながら作業を行う。 ・基準となる部位（今回は中指）と比較し、それより大きいものを収穫する。 ・今日の収穫物、収穫量を確認し、注文票テンプレートに出荷物、数量を記入する。	・自分が行う本日の作業を記入し、収穫や注文票作成に関する目標を自己設定する。 ・目標に対する反省を記入し、次回の作業に生かす。	
<b>教師の押さえ</b>	<b>教師の押さえ</b>	<b>教師の押さえ</b>	
・生徒主体で進めるが、必要な作業内容が含まれていないときには、補完するための言葉かけをする。	・分からないことは仲間と相談して解決する。難しい場合は教師に相談する。	・本日の作業内容と自己の課題から目標を立て、反省をするようにする。	

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）		展開2 (120分 ※展開1 と2を合 わせて)
<p>はじめのミーティングでは、生徒たちが本日の作業内容の分担の希望を挙げ、話し合いを通じて考える。作業の時間配分も生徒たちが考える。</p> <p>作業は2人1組のペアになって行う。互いに効率を考え、分担や確認などの対話をしながら進める。状況に応じて互いに手伝ったり、作業速度を上げたりしながら作業を進める。</p>		

<b>学習の成果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗から返信される注文書を受け、納品に期待感をもつとともに、日々の作業に対し、意欲をもつ。</li> <li>・作業日誌を使い、本日の目標が達成できたかどうかを自己評価し、教師からの他者評価を受ける。なぜできたのか、なぜできなかったのか、できなかったことはどうすればできるのか、また、人に依頼するべきことなのかを考え、次時の活動に生かす。</li> </ul>	まとめ (20分)
<b>授業終了時に想定される児童生徒のあらわれ</b> ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①野菜の種類や数量を確認し、正しく収穫や出荷調整ができる。</li> <li>②効率を考え、仲間と進捗状況を確認しながら収穫や出荷調整ができる。</li> <li>③お客様を意識し、時間を意識して手を休めずに作業に取り組むことができる。</li> </ul>	

# アクティブ・ラーニングによる授業実践記録

## 解決したい課題や問い



### ○解決したい課題を提示した場面について

普段からの圃場の観察や栽培計画表から、収穫可能な野菜があることに気付かせた。また、店舗から納品の依頼がきていることを伝え、電話ではなく、注文票のやり取りを行うことのメリットを伝えた。

### ★課題についての教師の評価

店舗への販売自体はこれまでも行っており、期待感をもつことができている様子だった。電話でのやり取りでは野菜の種類や数を伝えることが難しく、相手の時間をとってしまうことも考えさせることで、メリットに気付くことができたと思われる。

## 考えるための材料



### ○考えるための材料を活用しながら学習に取り組んだ場面について

作業分担表を使用することで可視化され、作業の進め方や分担についてじっくりと考え、確認することができていた。収穫に際し、身体の部位を使って判断させることで、迷わずに収穫ができていた。

### ★材料についての教師の評価

身体の部位を使った判断、はさみ等を持ちながらの作業だったこともあり、定規等の使用に比べて作業効率が上がっており、有効であったと思われる。

## 対話と思考



### ○対話や思考した場面の様子について

数種類の野菜を扱うことで、出荷調整の際に自然と作業分担や効率を考えたり、手が空いたときに「何か他にやることはありますか？」等と仲間に聞いたりする様子が見られた。

### ★対話や思考の場面についての教師の評価

効率のよい作業環境の調整については、実際に作業を行う中で考えさせ、教師のアドバイスが必要であると感じた。

## 学習の成果



### ○学習の成果を実感した場面の様子について

店舗からの返信は翌日に送られてきた。全ての野菜に発注がきたことで、自分たちの作業や製品が認められた喜びを表す様子が見られた。自信と感謝の気持ちをもって納品に伺うことができた。

### ★学習の成果について教師の評価

計画的な栽培と販売の好サイクルを繰り返し、作業学習の授業作りや製品の質を高め、生徒の意欲を高めていけるようにしたい。

## アクティブ・ラーニングの視点による授業実践を振り返って(もう一度同じ授業を行うとしたらどこを改善するか)

### ○成果と課題

FAX と注文票を使っでの受注は初めてであるため、教師がアドバイスをすることが多かった。繰り返し取り組む中で、生徒が主体となって確認したり、納品をしたりすることができるようになることを考える。時間に余裕をもって取り組ませることで、「なぜそうするのか」「どうすればよいのか」等を考える時間を意図的に設定できるようにしたい。